



教育目標：すすんで学び 心身ともに健康で 思いやりのある人になる

めざす学校像：①生徒の人格が尊重される学校 ②豊かな人間関係とより良い校風を育む学校 ③生徒の未来を見据えた学力を育む学校

めざす生徒像：「自己表現できる生徒・互いに認め合える生徒・粘り強く取り組み生徒」(令和6年度改訂)

めざす教師像：①生徒の人格と多様性を尊重する教師 ②より良い集団をつくり個々を育てる教師 ③ 授業を通して生徒の未来を明るくする教師

| 項目 | 中期目標 | 短期目標 | 具体的方策 | 努力指標 | 努力指標 | 成果指標 | 成果指標 | 今後の課題 | 学校関係者評価記入欄 |
|-------------|---------|---|---|------|------|------|------|--|--|
| | | | | (中間) | (最終) | (中間) | (最終) | | |
| 豊かな人間性の育成 | 1 豊かな心 | 全教育活動をとおして、心を育てる教育を推進し、いじめ防止教育の充実に努め、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。 | ①人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む。 ②「いじめ防止基本方針」に則り、いじめ防止教育を徹底する。 ③行事等をとおして、互いを認め合い、よりよい校風を育む。 | 3 | 3 | 4 | 4 | アンケートや面談で相談しやすい体制を作る。 「いじめ防止基本方針」の見直し・改訂、共通理解を図る。 | ・学校ぐるみで子どもたちに寄り添い、皆で共有する体制はともにも良い。 ・中学時代は自分を評価するとなると、自己嫌悪に陥るのが普通。自分の良さに気付かせることがまず必要。外部の人への挨拶は難しい。・豊かな人間性は感動から。 ・学校以外の社会に触れることが、基本的な生活面を身に付ける場になる。トータル的な学習から学んで欲しい。 ・子どもたちは身近な大人である先生方をよく見ている。先生方が安心して楽しく意欲的に業務にあたる環境が損なわれていないか？更なる飛躍を目指し、見直す機会があっても良い。・いじめのない学校を。 |
| | 2 生活 | 認め合う姿勢を醸成し、社会的資質や行動力の向上を図るとともに、困難をしなやかに乗り越え回復する力を育む。 | ①基本的生活習慣を確立する。(時間を意識した生活) ②挨拶の日常化を図る。(自然な挨拶) ③主体性をもって何事にもチャレンジさせる。(自主的な行動) | 3 | 3 | 4 | 4 | 生徒会活動を通して、生徒が主体的に挨拶できる雰囲気醸成する。教員自ら挨拶する姿勢を見せる。 | |
| 確かな学力の定着 | 3 基礎 | 主体的・対話的で深い学びの実践をとおして、基礎的・基本的事項の習得を図る。 | ①主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組む。 ②ICT機器の効果的な活用を推進する。 ③読書活動を充実させる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | スモールステップでの指導、読書活動の充実とともに、評価について見直し、改善や丁寧な説明を行う。 | ・ICT機器は便利だが教師の役割を補助するものに過ぎない。教師の心のこもった指導が生徒の心に響きやる気を育て、確かな学力の定着に結び付く。 ・考える時間の確保を。 ・学校の本来の役割として項目3.4の充実が他の項目の強化にも繋がる。授業力向上の研修や授業準備に集中できる環境作りには、保護者地域が協力できること。い。 ・個々の力に応じた学びの面白さを知ってもらう方向へ導いてほしい。面白い実践で、研修、ICTもその一助として有効。 ・読書は大切。国語の成績は読書の習慣で違ってくると感じる。 |
| | 4 活用 | 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をもとに、思考力、判断力、表現力の向上を図る。 | ①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業改善に取り組む。 ②体験活動を取り入れた、探究的な学びによって自ら学ぶ力を育成する。 ③1人1台端末を活用し現代の諸問題を主体的に捉え解決しようとする意欲を育てる。 | 4 | 3 | 3 | 3 | 校内研修を充実させ、授業力向上に向けて、学校全体で取り組んでいく。 | |
| たくましい心身の育成 | 5 支援 | 特別支援教育の視点に立った、一人ひとりに応じたきめ細かな対応を充実させる。 | ①特別支援教育の視点に立った、指導・支援を全教員で実践する。 ②サポート教室の整備や関係機関との連携をとおして、必要な支援を行う。 ③不登校生徒や保護者に寄り添い、課題の解決に向けて取り組む。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 生徒・保護者の声に耳を傾け、寄り添った支援を更に充実させていくとともに、不登校対策にも取り組む。 | ・生徒・保護者の声に耳を傾けることは重要だが、その声は通常なかなか聞こえてこない。あらゆる機会をとらえて生徒・保護者の声を聞いてほしい。 ・特に災害安全等に対する取り組みに対して地域と一緒に考えて考える体制をCSとして構築できればと考えます。 ・30万人不登校のこの社会で、生徒や親御さんへの寄り添いも必要になっている。味方であることがその先に繋がる。体幹の強化はこれから将来社会を生き抜くときにとても大事になる。 ・様々な体験の機会を設けることが効果的である。 |
| | 6 体力・安全 | 健康で安全に生活する力を育成する。 | ①生徒が上達し、運動が好きになるような保健体育の授業改善を実践する。 ②校内での取組や家庭で取り組める運動の周知をとおして、運動習慣を確立させる。 ③安全指導、避難訓練等をとおして、主体的に自他の命を守れるようにする。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 体育的行事の充実を図るとともに、情報モラル教育や災害安全教育について、新たな取組を行っていく。 | |
| 学校・家庭・地域の連携 | 7 特色 | 国分寺学の実施をとおして、地域を考え、地域に貢献する生徒の育成を図る。 | ①9年間の学習活動の集大成として、3年生の国分寺学×SDGsプロジェクト探究学習を実施する。 ②3年生の国分寺学×SDGsプロジェクト探究学習では、体験と地域への貢献を必ず取り入れる。 | 4 | 4 | 3 | 4 | 3年プロジェクト、SDGs講座を、国分寺人材をさらに多く活用したものにバージョンアップする。 | ・学校・家庭・地域の連携を進める上で、CS委員の役割は極めて重要。話し合いを深めてよりよい体制を構築したい。 ・SDGsプロジェクトの成果を生徒、教員ともに実感できていることがはつきり数字に表れていて素晴らしい。CSの認知は数字的には微増ですが、この積み重ねが大切と信じて来年度も頑張っていきたい。 ・地域には人材も材料も、歴史もある。出会いが多ければきっとこれから後に何かしら記憶に残るのではないかと。 ・地域にとって、四中生は貴重な存在。地域への協力も柔軟な思考からのアドバイスもたくさんいただきたい。 |
| | 8 連携 | コミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域との連携・協働を進める。 | ①9年間を見通した系統的な小・中連携教育をとおして、学力向上、生活指導の充実を図る。 ②国分寺型コミュニティ・スクールをとおして、地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていく。 | 3 | 3 | 3 | 3 | CS3年目として、地域とのつながりを生かした取り組みをさらに進めていく。 | |

解説

この「自己評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、努力指標と成果指標を分析し、改善策を提示したものです。

「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4（ほとんど達成した）、3（達成できた部分が多い）、2（達成できない部分が多い）、1（ほとんど達成されていない）となります。

「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果（A B C D 4段階）を総合した評価です。A B合計の%数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。